

【企画もの】

## いろいろな消しゴムを使ってみる

消しゴムは、文房具のなかでもなくてはならない必需品と言えるだろう。私も十何年の間、自分の筆箱の中から消しゴムがなくなったことはない。ところがよく思い返してみると、かれこれ十年くらい株式会社トンボ鉛筆の『MONO』しか使っていないということに気がついた。MONOはとても使いやすい。なのでこれまであえて買い替えようと思ったことがなかったのだが、この機会に他社のものも試してみることにした。

とはいえ消しゴムは多くの会社から様々な種類のものが売られており、すべてを使って調査することはできそうにない。そこで今回は、事務用品の通信販売を行っていて、2019年の文具メーカー売上高1位のアスクルにおいて、消しゴムの人気売れ筋ランキング1位から3位の消しゴムを使ってみることにした。1位は前述した『トンボ鉛筆 MONO』である。2位は『ぺんてる ハイポリマーAin 消しゴム 軽く消せるタイプ』、3位は『シード 消しゴムレーダー』だった。(2020年6月24日現在)

以下に、それぞれの消しゴムを使ってみて比較したものをまとめてみた。

	MONO	A i n	レーダー
本体の触感	すべすべ	粉っぽさを感じるが さらさら	しっとりしていてす べすべ
かたさ（本体をU字に曲げ てみる）	しなやか	かため	しなやか
におい	どれもゴムのにおいはするが少しずつ異なるにおい		
ケースの角の切れ込み	あり	なし	あり
消しやすさ	あまり差がなく、どれも消しやすく感じた		
消しカス	まとまる	まとまりにくい	よくまとまる

実際に比較してみて驚いたのは、思っていたよりも消しやすさに差がなかったことだ。もちろんこれは私の感想なので個人差はあるだろう。私にとって消しやすさに差を感じられなかったということは、これから消しゴムを購入する際に考慮するのは、前述の表

の”消しやすさ”の項目以外になるだろう。今回の調査を通して、それぞれの消しゴムの違いを考えることができおもしろかった。

また消しゴムの消しやすさ自体にはほとんど差がないのに、売れ方に差があったり SNS 等で「私は～～派」という意見があったりすることが気になった。その理由としては、1.消しカスなど消しやすさ以外も重視されている、2.消しゴム自体またはケースのデザイン、3.一旦使い出すと手に馴染んできて買い替えるタイミングがない、4.売れていると売り場でのシェアが大きくなりさらに売れるという循環、5.小学校入学時の学校用品準備リストの影響、6.親が子に買い与える時に昔馴染みのロングセラー商品が選ばれやすい、などが考えられるが、みなさんはどう思われるであろうか。本稿で行った比較も参考に、ぜひ考えてみてほしい。



#### 【参考】

アスクル 消しゴム人気売れ筋ランキング

<https://www.askul.co.jp/rd/01-0126-0104011/>

#### ■ 本稿書誌情報 ■

(本稿は無記名原稿)

---

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

[2020 年度「文化社会学演習」WEB 版報告書] <https://bungu-narajo.org/>

---

2020 年 8 月 1 日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail [ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp)